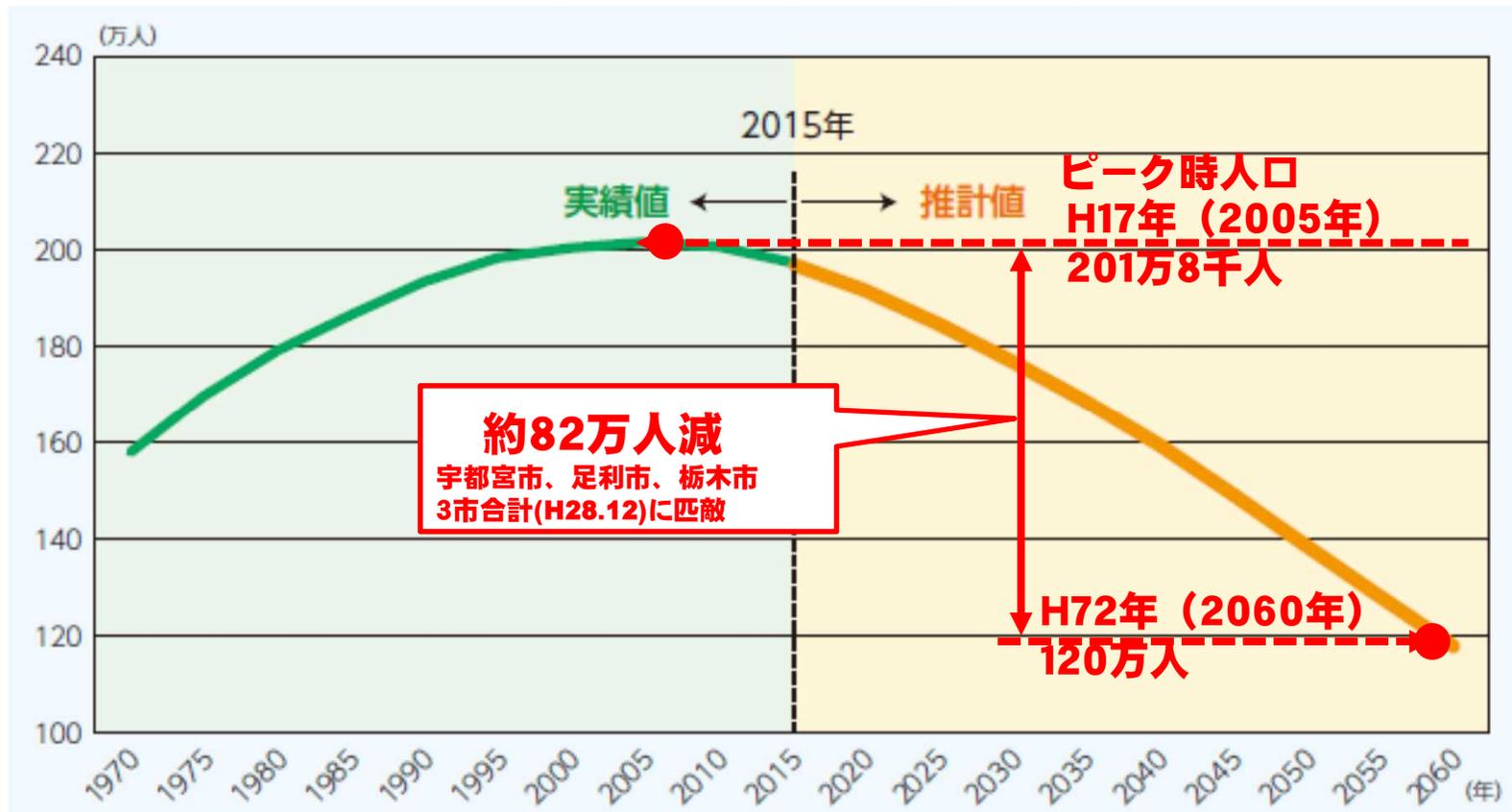


◇ 地域特性・社会情勢

栃木県の総人口の推移と将来推計

本県の総人口は、昭和30年代後半以降一貫して増加し、平成9年（1997年）には、200万人に達しましたが、少子化の進行や、若い世代の東京圏への転出等により、平成17年（2005年）年をピークに減少しています。

この傾向が続くと将来も大幅な人口減少となることが予想されます。



「とちぎ元気発信プラン」より

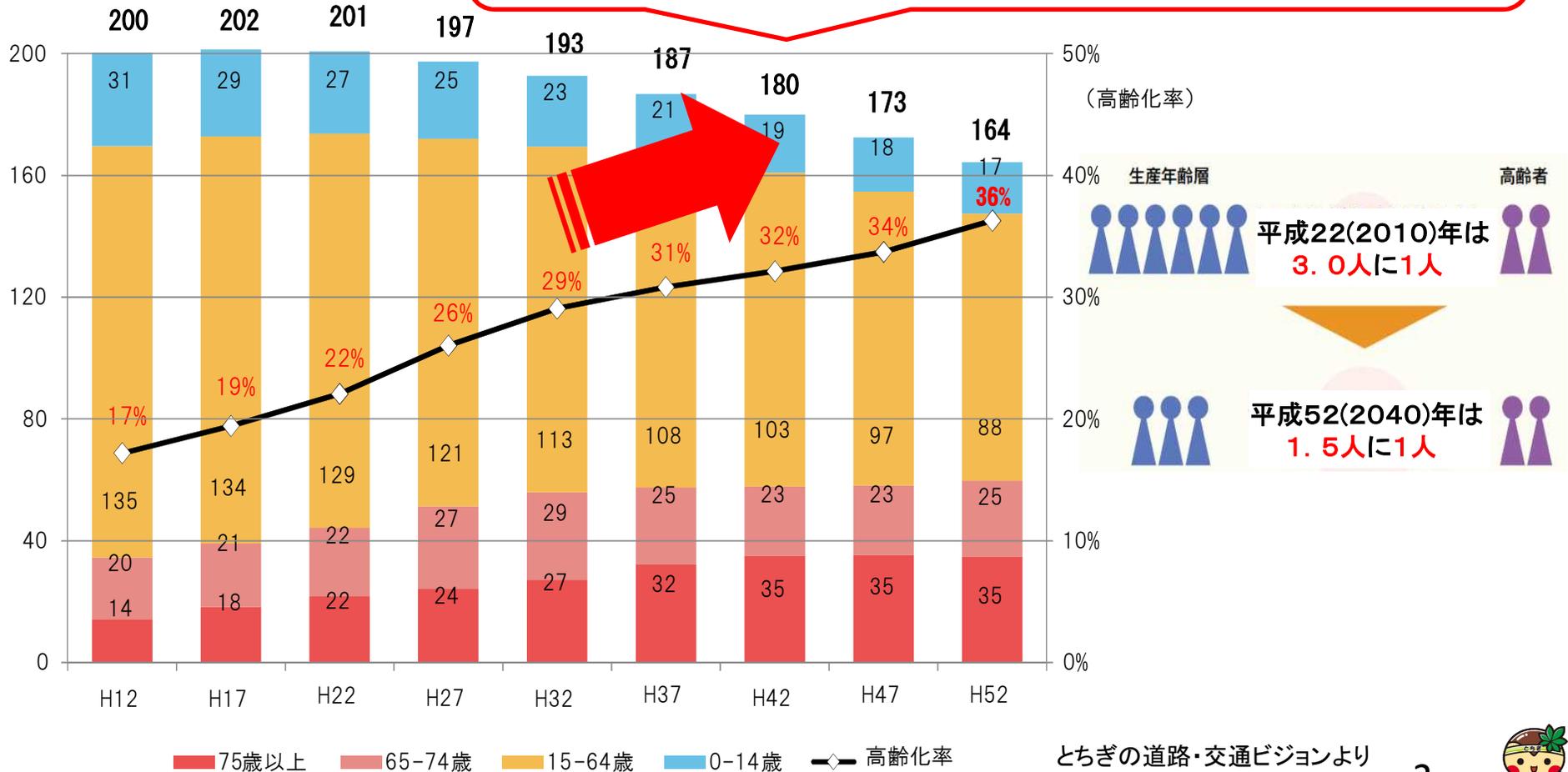


◇ 地域特性・社会情勢

栃木県における人口減少・少子高齢化の状況

高齢化は今後も加速度的に進行し、高齢人口の絶対数が増えていきます。
⇒公共交通による高齢者の移動需要が高まっていきます。

(万人：人口)



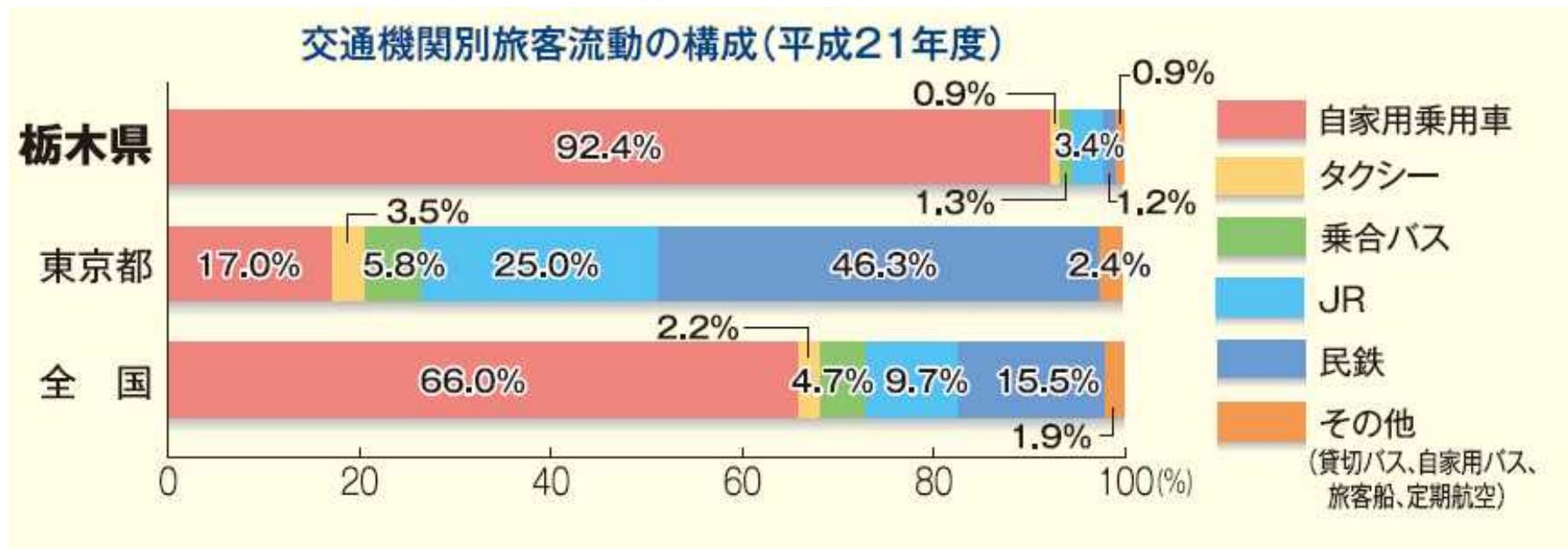
栃木県における高齢者の免許返納者数の推移



◇ 地域特性・社会情勢

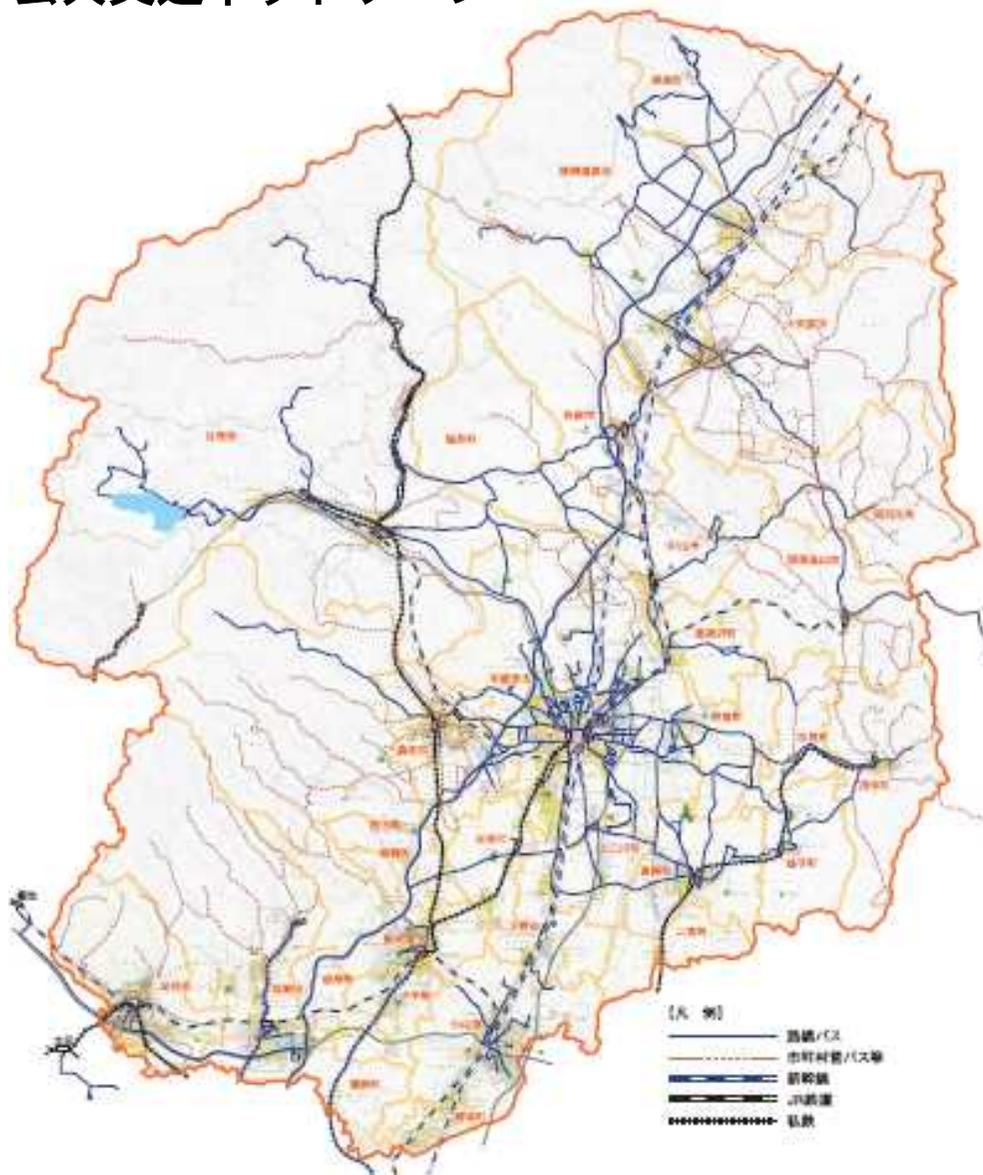
栃木県が「くるま社会」であることを示す指標

- 自動車の普及率 **全国第 7位** (96.4% H26全国消費実態調査)
- 自動車免許取得率 **全国第 2位** (70.6% H26” とちぎ “の交通事故)
- 1人あたりの自家用車保有台数 **全国第 2位** (0.66台 (財)自動車検査登録情報協会(H28.3))
- 自家用車利用通勤通学率 **全国第10位** (72.2% H22国勢調査段)



◇ 公共交通の現状・課題

公共交通ネットワーク



◇鉄道ネットワーク

- ・JR：6路線
(東北新幹線、東北本線、日光線、
烏山線、両毛線、水戸線)
- ・私鉄(東武鉄道)：5路線
(伊勢崎線、日光線、鬼怒川線、
宇都宮線、佐野線、)
- ・第三セクター：3路線
(野岩鉄道、真岡鐵道、わたらせ
溪谷鐵道)

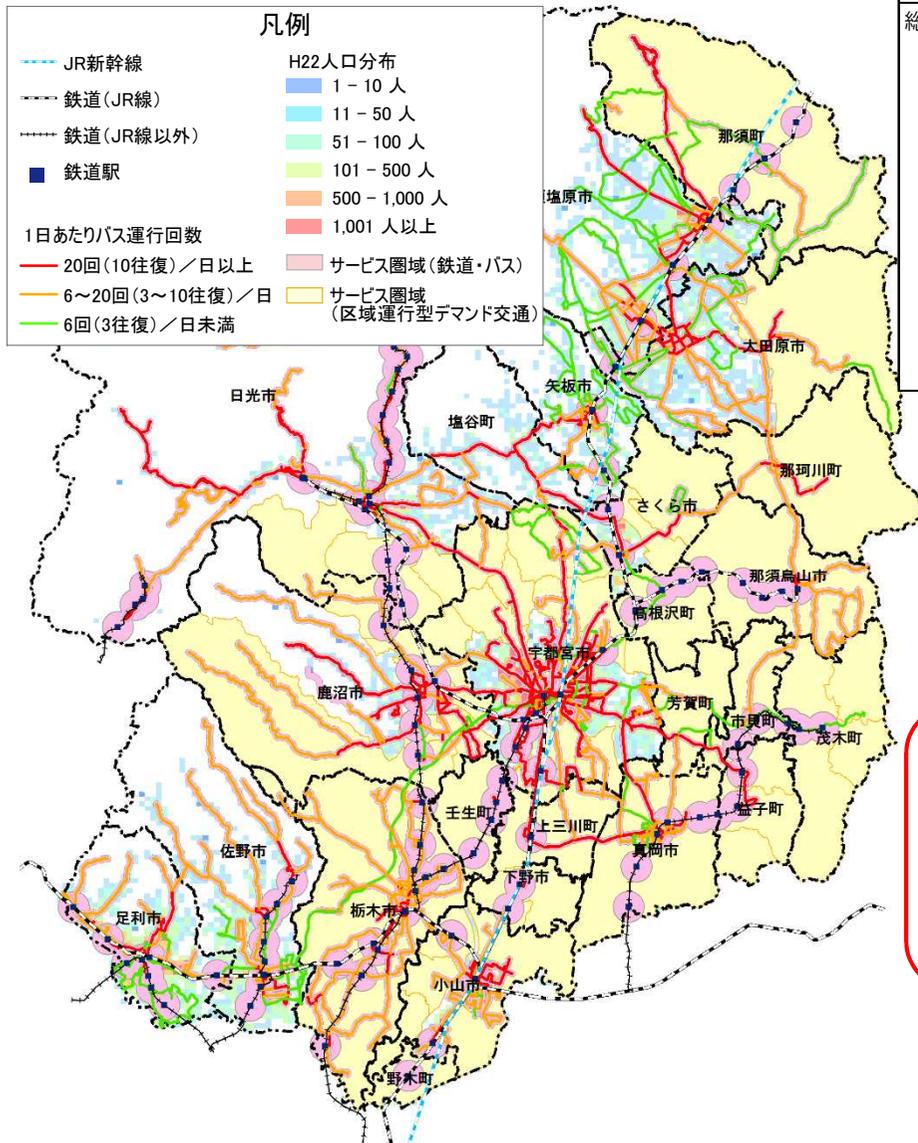
◇バスネットワーク (H27年度)

- ・民間：7社 270系統
- ・市町村：25市町 178系統



◇ 公共交通の現状・課題

公共交通ネットワーク（サービス圏域）



公共交通サービスの人口カバー状況（県全域） * H28年集計

	全系統	運行回数6回以上	運行回数20回以上
総人口	2,007,683		
鉄道・バスサービス圏域人口	1,840,611	1,803,652	1,760,568
総人口に対する割合	H28 (74.8%)	89.8% (71.0%)	87.7% (63.4%)
デマンド区域運行を除く			
鉄道・バスサービス圏域人口	1,515,385	1,478,426	1,232,571
総人口に対する割合	H28 (74.3%)	73.6% (70.4%)	61.4% (62.8%)
用途地域内人口	1,122,667		
鉄道・バスサービス圏域人口	1,114,308	1,101,882	1,096,288
総人口に対する割合	H28 (88.5%)	98.1% (86.9%)	97.7% (81.9%)

71.0%(H20)⇒89.8%(H28)

86.9%(H20)⇒98.1%(H28)

※公共交通サービス圏域(左図)は、

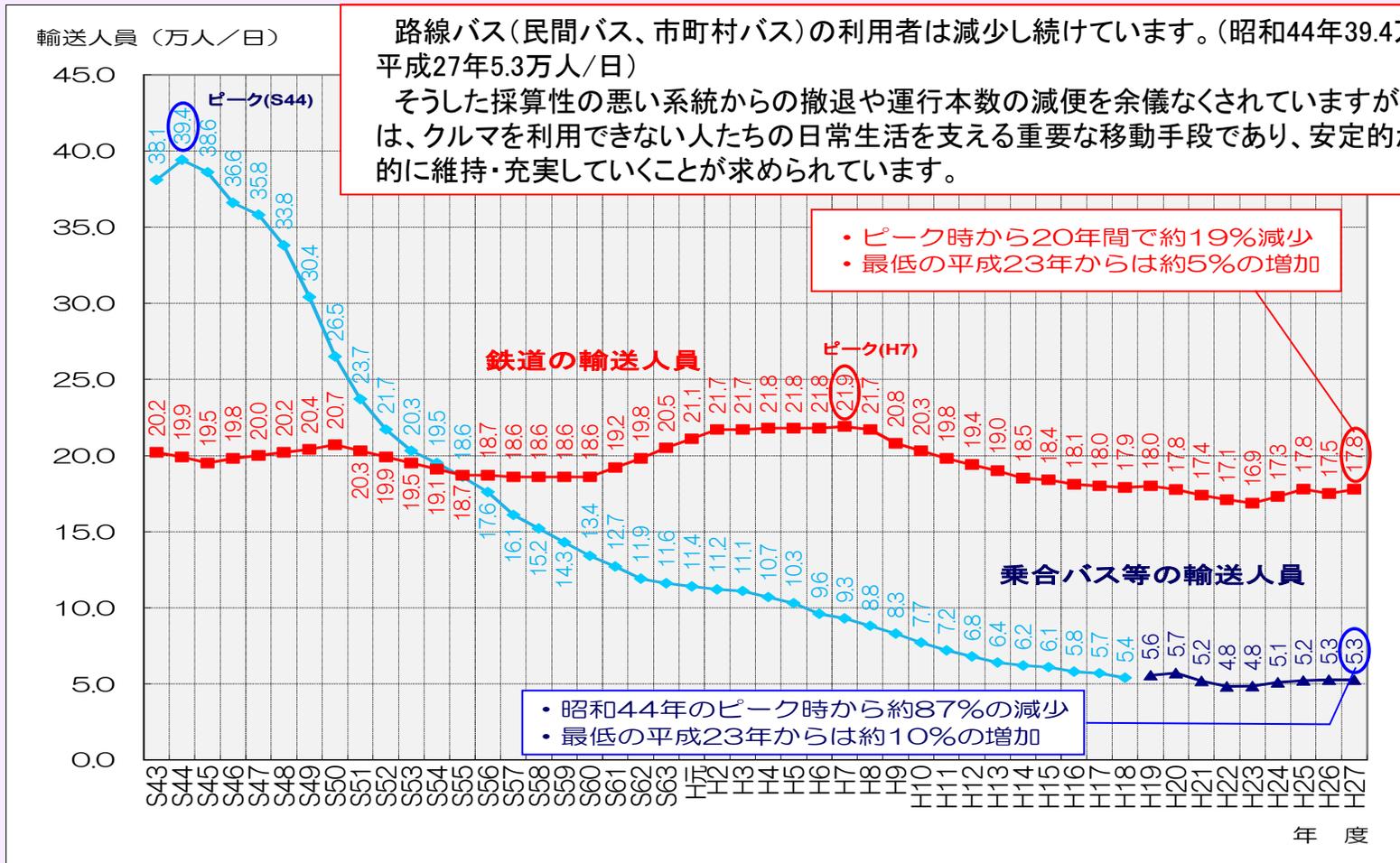
- ①鉄道駅1.5km圏域、
- ②バス系統(運行回数6回(3往復)/日以上300m圏域、
- ③デマンド型交通(区域運行)対象圏域、として設定

栃木県内の公共交通カバー率は、近年のデマンド交通の整備が進んだこともあり、約19%増と飛躍的に伸び、生活交通を利用できない人は少なくなっています。



◇ 公共交通の現状・課題

公共交通の現状（鉄道・バスの輸送人員）



資料：一般乗合旅客自動車運送事業輸送実績報告書（27年度）、平成27年度市町村バス運行実績（市町村照会）、栃木県統計年鑑

※H18以前は、道路運送法4条許可以外の市町村バスの輸送人員を含まない。

※H19乗合バスについては、輸送実績報告書未提出の2事業者を除く。

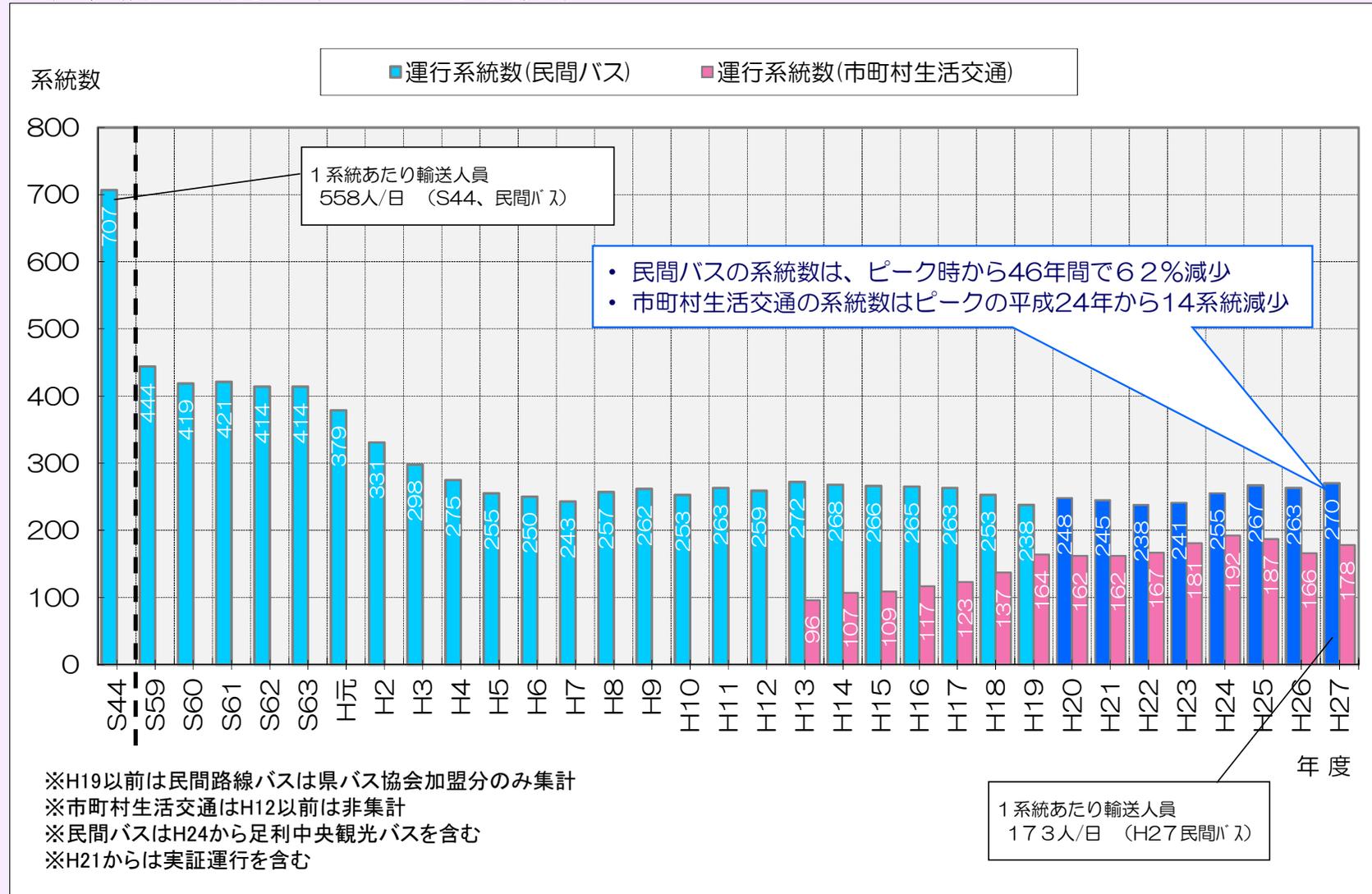
図 鉄道・バスの輸送人員の推移

「とちぎの公共交通」より



◇ 公共交通の現状・課題

公共交通の現状（バスの系統数）

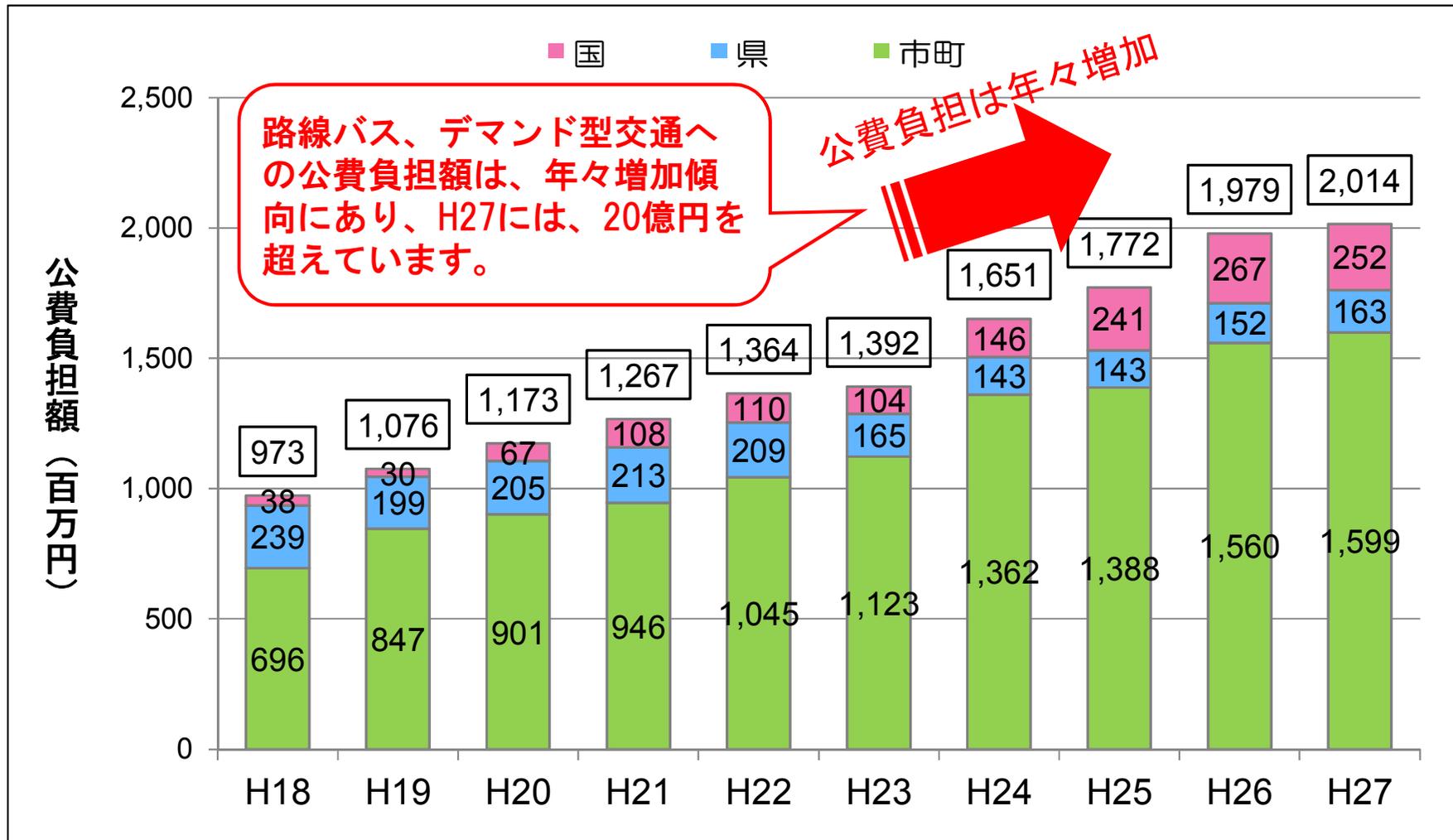


「とちぎの公共交通」より

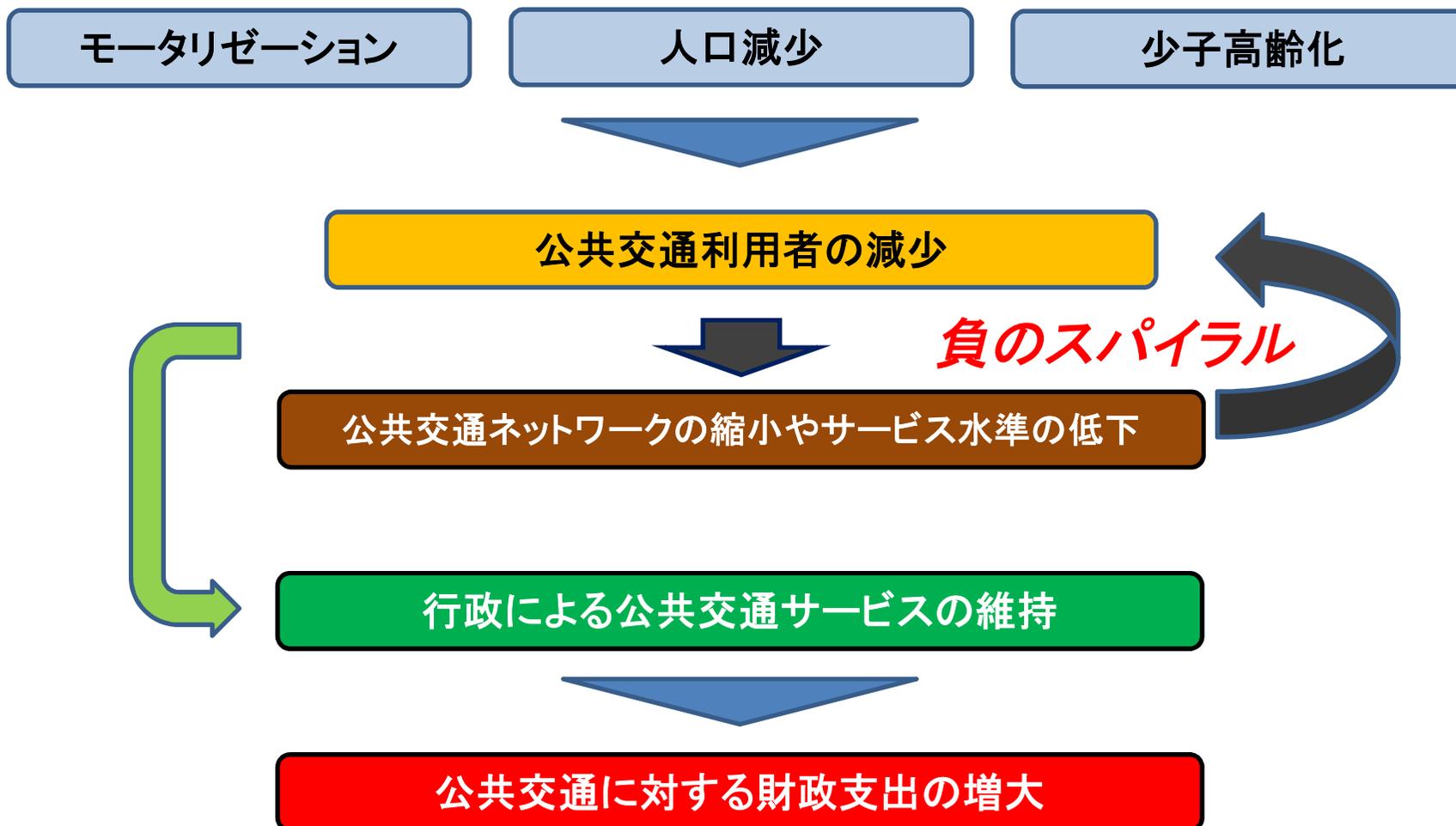


◇ 公共交通の現状・課題

バス交通の現状（運行への公費負担の推移）



◇ 公共交通の現状・課題



公共交通の利用者減少は、収支悪化からのサービス低下により、さらに利用者減を生む悪循環となってしまいます。
公共交通を地域の必需品として支えるためには、行政が積極的に関与する必要があります。

